

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-2-025
補助事業名 平成26年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
補助事業者名 特定非営利活動法人日本バリアフリー協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

音楽コンテストへの出場を通して、専門家の評価が得られ、他の演奏機会が増えることで、障がいを持つ音楽家の活動支援とする。また、音楽性・完成度の高い音楽作品の観覧を通じて、障がい者の自立の可能性・必要性について一般の人々の啓発とする。もって、障がい者の分野における社会福祉の増進に資する。

(2) 実施内容 (<https://gc.npojba.org/11>)

2014年10月13日(月・祝)、東京国際フォーラム ホールCにて第11回ゴールドコンサートを開催。障がいをもつ音楽家が出場する、音楽性を重視した本格的な音楽コンテスト。全国、海外から選抜された13組が出場。

前回の10周年記念大会を経て、今までにない新しい顔ぶれが出場した。審査員が、楽曲賞、歌唱演奏賞、審査員特別賞を、来場者の投票で観客賞を決定した。前回のグランプリ受賞者が演奏し、プロのミュージシャンによる演奏も行った。



開演前の客席



演奏の様子

2 予想される事業実施効果

- ゴールドコンサートの受賞者・出場者が、このコンサートをきっかけとして、演奏のみならず、出演依頼や各メディアの取材依頼を受けるなど、音楽活動の場の拡大。
(ゴールドコンサートの出場をきっかけに大手メディアに取材をされたり、タイアップされたりする出場者もあり、CDデビューを果たす出場者もいた)
事業の継続をすることで、多くの障がいをもつ音楽家の実力が、自分自身・社会に対して証明されるため、自立と社会進出の足掛かりとなる。

(別紙5)

- 観客は障がい者が奏でる音楽のレベルの高さに意外性を覚え、障がいに対して関心を持ち、障がい者の「出来る」部分に注目し始める。
- 障がい児や保護者が鑑賞することで、将来について話し合うきっかけになり意識に変化をもたらす。
- ゴールドコンサートの受賞者・出場者の出演依頼やメディア露出の増加により、イベントの知名度が上がり、音楽家を目指す障がい者が、本コンサートへの出場を目標とすることが活動の意欲となり、日々努力をすることで将来のステップへのきっかけとなる。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

第11回ゴールドコンサート報告書 (DVD付き)

(URL http://gc.npojba.org/11/collaboration/keirin_h26)



Contents		頁次	
第11回ゴールドコンサート開催記録	1	受賞者の声 審査員特別賞 <佐藤 翔>	9
組織委員会からより挨拶	2	受賞者の声 審査員特別賞 <木田 成>	7
実行委員長より挨拶	3	出場者の声	10
協賛者よりメッセージ	4	出場者の声	12
特別ゲスト	5	審査員特別賞の紹介	12
ゲスト	6	副審査員長よりメッセージ	13
受賞結果：出場者一覧	7	ボランテアよりメッセージ	14
受賞者の声 美由貴 <YOUTA>	7	実行委員長よりメッセージ	15
受賞者の声 新藤 真実音 <矢野 文香>	8	観覧アンケート結果	16
受賞者の声 観覧者 <野間 ますか>		ボランティアアンケート結果：収支決算書	17

障がい者の音楽コンサート 第11回ゴールドコンサート開催記録	
●日時	2014年10月13日(月・祝)
●場所	東京国際フォーラム ホールC
●趣 意	障がいをもつミュージシャンのコンサートであるゴールドコンサートは、出場者をはじめ企画運営に関わる者まで障がい当事者で占められている。このコンサートに、行政、企業、学校、地域の人々に広がり、協賛、ボランティア、観覧、インターネットによる視聴など様々な形で参加してもらうことにより、できるだけ多くの方に障がい者の自立、社会進出の必要性を認識してもらう。もって、誰もがやる気や能力に応じて参加できるユニバーサル社会の実現に貢献する。
●内 容	●初の関西予選会と、全国各地から寄せられた賞賛応募作品より、全国 海外から選ばれた13組内、韓国から1組)が出場。その13組から各賞が選ばれ授与が行われた。 ●特別ゲストとして HANDSIGNさん、ゲストとして 10周年記念ゴールドコンサート(2013年)グランチャンピオン受賞者の山下純一さんが出演。エンディングでは特別審査員であり、ゲストの MORISHINさんが出演。 ●賞状、ゴールドコンサートをサポートしてくださっている「公益財団法人オリーブス富岡財団」「MeiBai Saitoh グラマツ株式会社」に感謝状の贈呈が行われた。
●出場者数	約50名 (出場者約25名、キッズ・介助者約25名)
●出場関係者	約50名 (出場者約25名、キッズ・介助者約25名)
●観覧者数	約200名(ボランティア含む)
●賞状数	約200件
●感謝状数	6件(テレビ局2社、新聞社1社、その他3社)

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの
なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 特定非営利活動法人日本バリアフリー協会
(トクテイヒエイリカツドウホウジンニホンバリアフリーキョウカイ)

住 所 : 〒102-0093
東京都千代田区平河町1-7-16-801

代 表 者 : 代表理事 貝谷 嘉洋 (カイヤ ヨシヒロ)

担 当 部 署 :

担 当 者 名 : 高橋 純代 (タカハシ スミヨ)

電 話 番 号 : 03-5215-1485

F A X : 03-5215-1735

E - m a i l : takahashi@npjba.org

U R L : <http://www.npojba.org/>